

# 市長に聞く

時代とともに歩み、時代を切り拓く

”鹿児島市“

市制施行125周年 新生鹿児島市誕生10周年

■今年、節目の年を迎えるにあたっての、市長の思いをお聞かせください。

鹿児島市は、南九州の中核都市として目覚ましい発展を続けており、4月に明治22年の市制施行から125周年を、11月には平成16年の旧5町との合併による新生鹿児島市誕生から10周年の節目を迎えます。今日の発展は、先人の、郷土



市長 博幸 森

を愛し、未来にかける情熱や意志によって築かれたものであり、あらためて深く敬意と感謝の意を表したいと思えます。

私は、市長就任以来、一貫して「市民が主役の鹿児島市の実現」を基本理念として、市民とともに考え、共に行動する協働のまちづくりを積極的に推進しています。中でも、合併直後の新生鹿児島市の市長として、市域全体の速やかな一体化と、各地域の特性や資源を生かした均衡ある発展を着実に図るとともに、九州新幹線全線開業を見据えた観光振興などの取り組みを加速させ、まちのにぎわいの創出と地域の活性化を進めてまいりました。

また、環境リーディングシティの実現に向けたさまざまな施策を行うとともに、少子高齢化が進行する中で、子育て支援の取り組みを充実させてまいりました。

私は、職員時代を含めるとこれまで40年にわたり市政に携わってきました。特に、市長としてのこの10年間は、大変厳しい社会経済情勢の中で、本市が将来に向けて飛躍していくために、極めて重要な時期であったと思いますが、次の世代を見据えた各種施策を展開し、着実に市政を前へ進めることができましたと考えています。

■今後のまちづくりについてお聞かせ

ください。

我が国において、少子高齢化が進行し、人

口減少局面へと移行している中、地方の果たす役割は大きなものがあります。今こそ地方自治体が、交流人口の拡大や地域経済の活性化など、さまざまな課題に的確に対応しながら、自らの創意工夫と地域特性を生かした取り組みを加速させ、地域の活力を高めていかなければなりません。

現在、本市では、明治日本の産業革命遺産の世界文化遺産登録と桜島・錦江湾の世界ジオパーク認定を目指す取り組みを進めるとともに、国内外の都市との多彩な交流を行うなど、世界を視野に入れた取り組みを一体的に進めています。歴史・自然・文化や食など、本市ならではの魅力にさらに磨きをかけ、国内外に通じる魅力を持ち、次世代に誇れる素晴らしい都市を創ってまいりたいと考えています。

これからは、物質的な豊かさだけでなく、自然の豊かさ、心の豊かさなど、真の豊かさを実感できるまちづくりが求められていると思っております。

私は、今後とも愛してやまない鹿児島市の限らない発展と市民福祉の向上のため、市民の鹿児島市に寄せる想いや知恵、行動力を結集し、第5次鹿児島市総合計画で掲げる都市像「人・まち・みどり みんなで創る」豊かさ“実感都市・かごしま”の実現に向け、持てる力と情熱の全てを傾注してまいります。